

4 下流域

(1) 自然環境の概要

茨城県城里町、那珂市の那珂台地、東茨城台地の洪積台地に挟まれた低地を流れてきた那珂川は、水戸市付近から下流域に入る。下流域は、肥沃な沖積平野の田園地帯を流れる。水戸市街で桜川を、河口付近で澗沼川を合わせ、ひたちなか市と大洗町で太平洋に注いでいる。

下流域には笠間、吾国愛宕、水戸の各県立自然公園がある。その一つ、水戸県立自然公園内には、桜川及び千波湖が借景*として取り込まれたという日本三名園のひとつ、名勝借楽園があり、季節ごとに観光客でにぎわっている。

城里町、那珂市から水戸市にかけての区間は、オギ群落が大半を占めるが、ヨシ群落も点在するようになる。

常磐線橋梁より下流は、昭和61年8月の水害の際に大きな被害を受け、川沿いにあった人家や耕作地は水害対策の河川整備によって移動し、跡地は河川敷となった。新しくできた水戸市やひたちなか市の市街地周辺の河川敷には外来種のセイタカアワダチソウ群落やオオクサキビ群落などが目立つ。



(水戸市 千波湖方向をのぞむ 桜川合流点付近 平成15年11月)

図4-54 那珂川下流の様子（河口から8.0km付近）

* 借景

庭園外の山や樹木などの風景を、庭を形成する背景として取り入れたもの。

常磐自動車道橋梁(河口より約20km)付近までは、潮汐による水位変動の影響を受けている感潮域*であり、汽水性の魚類や底生動物とともに、淡水性の魚類や水生昆虫も生息し、多様な生物相を示している。

河口付近は、かつては大きく北に湾曲していたが、明治時代の掘削工事でまっすぐに海に注ぐ現在の形となった。河口左岸は市街地に隣接しており、護岸が整備されている。右岸には河口砂州が形成され、海浜性の植物や海浜性の昆虫が見られるようになった。また、右岸上流の台地上には「巖船夕照」の眺めで知られる景勝地があり、段丘崖の斜面にシラカシ、クロマツ、アズマネザサの群落が見られる。



(ひたちなか市 大洗町 平成 15 年 11 月)

図 4-55 那珂川の河口周辺

* 感潮域

海の潮汐に伴って、流速や水位が変動する範囲。海水の塩分が遡上する範囲より上流まで及ぶ。



※図中の赤字の場所は本文中で取り上げた環境

図 4-56 那珂川下流域の自然環境位置図